


としょかんがすすめる夏休みの本（3・4年向き）


『二平方メートルの世界で』
前田 海音／文 はた こうしろう／絵
小学館（Eハ・ニ）

海音は病気で、年に何度か入院しなければなりません。入院中はお飯を食べられないなど不自由なだけでなく、「こどく感」におしつぶされそうになります。そんな時、ベッドにまたがるオーバーテーブルであるものを見つけます。




『ぼくは川のように話す』
ジョーダン・スコット／文 シドニー・スミス／絵
偕成社（Eス・ボ）

ぼくにはうまくいえない音があります。そのため、上手に話すことができず、クラスメイトに笑われて傷つきます。しかし、学校が終わってから、川へ連れて行ってくれたお父さんのことばをきっかけに、ぼくは大事なことに気づきます。




『ぼくと石の兵士』
リサ・トンプソン／著 PHP 研究所（933ト・ボ）

人前で話すのが苦手なオーエンにとって、戦没者記念庭園にいる石像の兵士は、学校での出来事や将来の夢などなんでも話せる特別な存在です。ある日、この兵士像が撤去されると知った彼は、兵士像を救うため、大勢の前でスピーチすることを決心します。




『和ろうそくは、つなぐ』
大西 暢夫／著 アリス館（576ワ）

一本一本、職人の手で作られる和ろうそく。原料のろうは、ろう職人が作ります。ろうを作った後に出るカスは、あい染職人のもとの染料をあたためるために使われ、そして、染料を作り変える時に灰は次の職人へ…。捨てるものがない職人のモノづくりの知恵とつながりに感心させられます。




『せかいのはてってどこですか？』
アルビン・トゥレット／さく ロジャー・デュボアザン／え 童話館出版（Eテ・セ）

井戸の中に一匹のかえるが住んでいました。かえるは、井戸の中がせかいの全部だと思っていました。ある日、井戸の水がなくなってしまったので、外へ出ることに。さて、井戸から飛び出したかえるが見つけたものは…？



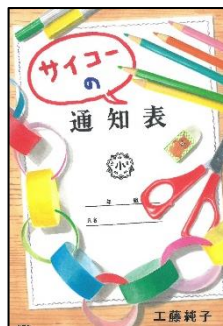
『じゃがいもかあさん』
アニータ・ローベル／さく 偕成社（Eロ・ジ）

おかあさんは、ふたりのむすことじゃがいもを育ててくらししていました。しかし、兄は東の国、弟は西の国の兵士になってしまいます。東の国と西の国の戦争が長引き、食べる物がなくなってしまったむすこたちは、おかあさんのもとへやってきますが…。




『サイコーの通知表』
工藤 純子／著 講談社（913ク・サ）

良いところも悪いところもない「ふつう」の通知表を見て、自分には何のとりえもないと落ち込む朝陽は、同じように通知表なんかいらぬという友だちと、担任の先生の通知表をつけることに。でも、それは思っていた以上にむずかしくて…。



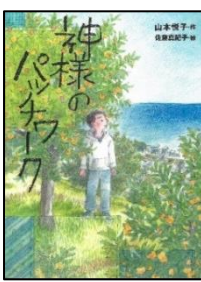
『まなぶ』
長倉 洋海／著 アリス館（748マ）

湖の上にある学校まで舟をこいで通う子。山道を2時間かけて学校へ通う子。世界には、学校へ通うことさえ大変な子がいたり、戦争のせいで学校がなくなってしまった子もいます。それでも、みんなまなびつづけるのです。「まなぶ」こと大切さについて考えさせられる本です。



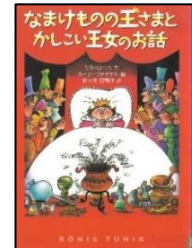
『神様のパッチワーク』
山本 悦子／作 ポプラ社（913ヤ・カ）

小学四年生の結には、生んでくれたお母さんと赤ちゃんのときから育ててくれているお母さん、二人のお母さんがいます。それを知った転校生のあかねから「不幸な生い立ち」と言われた結は、血のつながらない家族といることは不幸なのか、家族とはなんなのか考えることに。



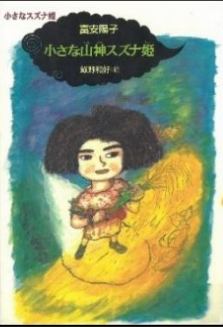
『なまけものの王さまと かしこい王女のお話』
ミラ・ローベ／作 徳間書店（943ロ・ナ）

ある国に、ナニモセン五世というたいそうなまけものの王さまと、王さまとは似ても似つかない元氣な王女がいました。ある日、王さまが病気になる、王女は病気を治すために城を出ますが…。




『小さな山神スズナ姫』
富安 陽子／作 偕成社（913ト・チ）

偉大なる山神のむすめ・スズナ姫は、スズナ山の山神になりたいとお父さんに伝えます。すると、一日で山を紅葉させることができたなら、一人前の山神と認めてくれるというのです。スズナ姫は見事、山を紅葉させることができるのでしょうか。




『お姫さまのアリの巣たんけん』
秋山 亜由子／作 福音館書店（486オ）

むかしむかし、虫が大好きなお姫さまがいました。ある日、友だちとアリの巣穴をほっていたら、小さな仙人が出てきて、みんなの体をアリと同じ大きさにしてしまいます。お姫さまたちは、アリのことを知ろうと巣の中へたんけんに出かけます。




『マドレーヌは小さな名コック』
ルパート・キングフィッシャー／作 徳間書店（933キ・マ）

マドレーヌは、不思議な食料品店でびんづめのペーストを買います。そのペーストをおじさんのレストランで使ったところ、おいしいとひょうばんに。そこで、おじさんは、マドレーヌに店からペーストのレシピを盗んでくるよう命じます。



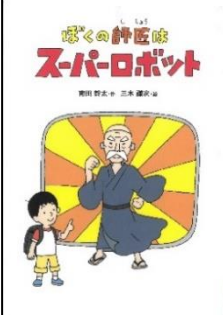
『坂の上のパン屋さん』
尾崎 美紀／作 文研出版（913オ・サ）

パン好きな翔太は、おいしい食パン屋さんを見つけます。どうしたらこんなにおいしいものができるのか気になり、店の作業場をのぞいていると、おじさんに声をかけられ、パン作りを見学させてもらえることに。そこで翔太は、おいしいものを作るうえで大切なことを学びます。



『ぼくの師匠はスーパーロボット』
南田 幹太／作 佼成出版社（913ナ・ボ）

クラスで一人だけロボットをもっていない順一は、特売の人型ロボットを買ってもらいます。けれど、このロボット、外見だけでなく中身も人間のがんこおじいちゃんにそっくりだったので。順一はロボットを返品しようとするのですが…。



『かあちゃん取扱説明書』
いとう みく／作 童心社（913イ・カ）

かあちゃんが勉強しなさいと言わなくなり、晩ごはんには毎日自分の好きな物を出してくれたらいいのと思っていた哲哉は、かあちゃんの手取扱説明書（トリセツ）をつくりまします。トリセツのおかげで、かあちゃんが自分のおもいどおりになり、よろこんでいた哲哉ですが…。

